

聞き覚えのない声で、『俺が誰か解るか？』と失礼な電話が舞い込んでから半年、この3連休に休暇を一日プラスして谷山北中学校昭和37年卒同窓生の還暦同窓会に参加した。

同級生を思い出さなくては、悪童連中に何を言われるかたまったものではないと思ったので、中学校の卒業アルバムを探してみたのだが、見付からなかった。何しろ45年ぶりに会う者が多い筈なので彼等の顔を思い出さねばと思って無駄な努力をもした。そうこうする内に還暦同窓会当日となった。

所感を幾つか述べたい。

写真は追って掲載する。取り敢えず中学校の修学旅行時の写真を



① 不思議なり、時空を越えて昔に戻れた！

ホテル差し回しの巡回バスに乗り込み、乗り込んでくる連中と最初はお互いを見つめあい、そして「〇〇君(さん)・・・なのかい」と心持ち心配げに問いかけると相手はそういうお前は『ひよっとしたら山下？』と声を掛けてくる。不思議なもので、その最初の一言で一挙に45年前に逆戻りである。思い出さないのではないかなどと言うのは実は杞憂であったのである。

② 面影強き者と面影少なき者の差は！

会っただけで、誰だったか解る者、それだけ中学校時代の面影を強く残している者が多いものだ。多分中学校時代に、人相にしても体格にしても、そして或いは性格的にも大人びてしまってそれ以後はそう大きく変わることが少ないのだろう。中には、名を聞いてやっと思い出す者も居たが、そう謂われて見ても面影が少なく話がなかなか噛み合わない。

一般的には男性はそれ程の変化は少ないようだ。女性の変化は大である。それ程、女性にとって年輪の持つ意味は大きいのだろう。

③ 輝き増した者と失いし者と！

若い時代から何事につけ光り輝いていた者が今も輝いているかと思えば、残念ながら余り伸びなかったと言わざるを得ない、如何なる人生行路があったのか知らないが、そういう者も居た。

④ 参加率5割弱をどう見る！

還暦同窓会に北は関東、南は宮古島からの参加があり、卒業生の約半数が参加した。近くに居ながら、万障を繰り合わせるでもなく、口実を設けて或いはあからさまにそういう会合にはちょっと遠慮させてくれと言う同窓生も居ると幹事が嘆いていたが、そういうものだろうか。何故、そういう心境になるのだろうか。余り良い思い出がないのだろうか。そんな仲間ではなかった筈だと小生は信じているのだが・・。

⑤ 恩師の参加に感謝！

小生らの担任であった恩師を招待したところ、参加して頂いた。喜寿を迎えられたと言うのに矍鑠として、弓術の教士の免状を許されたとの話であった。10年後の古希同窓会に米寿を迎えんとされる恩師を再び招待出来れば最高だ。師曰くお前には是非会いたかったと、有難いことだ。

⑥ 会いたかった者に合えぬ寂しさもあり！

別の小学校からの同級生で、中学時代は色々な意味で良きライバルでもあり、志を同じくして同じ高校に入学し、3年間共に学んだ者が参加していなかったのは寂しかった。彼とは大学時代、帰省するたび訪ね訪ねられて一晩中人生や哲学や安全保障について語り明かしたものだが、イデオロギー的な差異が次第に鮮明になり、何時しか縁遠くなってしまった。大学卒業以来でも30数年経過しているのだから、その様な考え方の差など全く問題ない筈だから、会って話してみたかったのだが・・

⑦ 古希同窓会を！

生徒会長であった故か最後の乾杯をと言うことだったので、皆に10年後に古希同窓会をやりたい、今回の幹事諸兄には済まないがもう一度やって貰いたいと願望を述べ、肝臓が悪くて酒の飲めぬ幹次長役の同級生がその気になって貰えることを期待した。

還暦同窓会を詠める詩

「秋 香 朋 輩 悦 参 来
忽 憶 旧 交 帶 涙 回
不 尽 話 題 時 瞬 過
古 希 堅 約 再 傾 杯